

組織学会通信

No.95

2024. 9. 20

【大会関係】

【1】2024年度組織学会研究発表大会報告

2024年度組織学会研究発表大会は、明治大学（駿河台キャンパス）において、歌代豊先生を実行委員長として、2024年6月22日（土）、23日（日）に開催されました。事前登録ベースで521名もの会員の皆様にお申し込みいただき、会場にも520名を超える皆様にお越しいただき、盛況のうちに終了することができました。

対面開催が再開されてから2度目の大会となったわけですが、開催校実行委員会の先生方、と事務局、当日現場でご対応いただいた学生スタッフのご尽力により、大きなトラブルなく実施できたように思います。他方で、各会場では、発表者ご自身のPCのトラブル、あるいはPCをプロジェクタに繋ぐコネクタの不具合や持参忘れによる（若干の）遅延が発生するなど、主催者の責に帰さない事由による小さなトラブルも、昨年度同様にいくつも見られたように思います。学会員の皆様には、改めて、大会を裏で支えてくださる実行委員会や事務局のご苦勞について一考いただいた上で、行動していただくようお願い申し上げます。いずれにしましても、上記すべての関係者のおかげ様で、大きなトラブルもなく盛況のうちに研究発表大会を終えることができましたこと、心より御礼申し上げます。

今回は、昨年度を上回る89の研究発表が行われたこともあり、研究発表大会当日は、並行6会場での実施となりました。一日目の午前は大学院生セッション、午後から研究発表セッションと基調講演、二日目はお昼の『組織科学』委員会セッションを挟んで、終日、研究発表セッションが行われました。大学院生セッションは大会委員である司会者と発表者によって、研究発表セッションは有志の会員の司会によって、滞りなく進められました。

一日目の午後の基調講演では、歌代豊実行委員長司会のもと、ヤマハ発動機株式会社の茨木康充氏、明治大学の新宅純二郎先生によるご講演及びパネルディスカッションが行われました。「現場発デジタルイノベーション」と題するこのセッションにおいては、いまの日本企業、さらには日本社会にとって喫緊の課題であるデジタルイノベーションの問題について、それぞれの観点から整理していただいた上で、日本の経営学にとっての挑戦とは何であるか、ということをご提言いただきました。新宅先生の言葉からは、日本社会そして何より日本の組織研究者への強い期待が、溢れ出していると感じました。

例年は、この基調講演の終了後即座に高宮賞授賞式および会員総会となっていましたが、今回は会員総会の前に、高宮賞受賞者セッションを開催いたしました。受賞者である園田薫氏が、どのようにして名著『外国人雇用の産業社会学』をお書きになったのか、書籍の文面には現れない背後のエピソードや想いに、多くの会員様が熱心に耳を傾けておられました。ややタイトなスケジュールにはなりましたが、それでも、多くの会員様に受賞者セッションにご参加いただけるという意味で、これはこれで1つのやり方であると感じました。

一日目の最後のセッションは、総会でした。夕刻以降は、リバティタワー内の岸本辰雄ホールにて、懇親会が開催されました。256名超の学会員が参加し、熱い議論を交わし、また交流を深めました。

二日目の午前中は研究発表セッションが行われ、お昼の時間帯に『組織科学』委員会セッションを挟み、16時20分に全プログラムを無事に終了することができました。

二日間の長丁場において、受付のデスクで、また各会場で管理運営を行ってくださった明治大学実行委員会の先生方には御礼申し上げます。本当にお疲れ様でした。

次に大会委員会の活動について御報告いたします。大会委員会は2024年3月の締め切りまでに応募された原稿をもとに審査をし、発表の可否を決定いたしました。本大会での発表の採択数は89件、不採択数は5件（形式不備などにより）で、採択率は94.68%となりました。エントリーに際して規定のフォーマットを守らない方が依然として多かったこともあり、昨年度（97.6%）よりもやや低い数値となりました。不採択となったエントリーに多かったのは、「全体的にフォーマットを改変してしまっている」「Referenceの形式やフォントが規定のものと異なる」「システム上に入力されたタイトルとエントリーフォーマットに書かれたタイトルが異なる」「自身の氏名や所属先の書式の不備」「本文のページ数や行間スペースが規定のフォーマットと合っていない」「本文の分量が規程よりも極端に短い」といったことでした。今回は「採択」となったものの中にも、上記よりは軽微であるものの、規程に反しているものが多く見られました。大会委員会メンバーは、極めて限られた期間の中で、数十件から多い場合には100件近くのエントリーに対して査読を行うこととなります。その業務を最小化するためにも、会員の皆様にはぜひ、規定のフォーマットの遵守をお願いしたいと思います。

さて、大会委員会は例年通り、大学院生セッションで審査を行い、「ドクトラル・コンソーシアム」（略称「ドクコン」）参加メンバーの選出を行いました。ドクコンは、次代の若手研究者育成を目指す取り組みで、年次大会前日に開催されます。一昨年度の大会からは、このドクコン参加の権利を得た方々を「研究発表大会優秀報告者」と呼ぶこととなりました。ドクコン参加候補者（兼研究発表大会優秀報告者）を決定するべく、研究発表大会における大学院生セッションでの報告の中から大会委員会が評価・選出を行い、今年度

は、以下の5名の大学院生を選出いたしました。誠にありがとうございます。

[2024年度年次大会ドクコン参加候補者・2024年度研究発表大会優秀報告者]

一橋大学大学院 市悠太郎さん

神戸大学大学院 陳青さん

早稲田大学大学院 工藤（原）由佳さん

一橋大学大学院 永野克将さん

神戸大学大学院 米田晃さん

※五十音順

最後になりますが、開催校実行委員会の先生方のご尽力、また常に前向きにご対応くださる大会委員会の先生方に改めて御礼申し上げます。また大会委員会の活動をバックアップして下さった青島会長をはじめとする理事・評議員の先生方、そして何よりも常に包括的かつ的確なアドバイスを下さる事務局お二人の献身なくしては不可能だったと思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

***2025年度組織学会年次大会（法政大学）のお知らせ**

2025年度組織学会年次大会は、2024年9月28日（土）、29日（日）に、法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催されます。今大会は『経営のフロンティア：2040年に向けた組織の課題と挑戦』と題する、実に魅力的なプログラムとなっております。その他、編集委員会セッション、大会委員会セッション、ランチョン・ミーティング、さらには国際委員会主催の英語セッションなども企画しております。それぞれのセッションの内容は、時間をかけて練りこまれた質の高い内容となっておりますので、期待してご参加いただければと思います。

組織学会大会委員会担当理事 井上 達彦

2024年度組織学会研究発表大会 開催校挨拶

2024年度組織学会研究発表大会は、6月22日（土）・23日（日）の2日間、明治大学駿河台キャンパスにおいて開催されました。

新型コロナウイルス感染症が収束しつつあった昨年の京都産業大学の研究発表大会は、3年ぶりの対面による開催となり、400名を超える参加者が集い、活発な研究報告と交流が

行われました。今回も対面開催の大会の価値を継承すべく、開催準備を進めてきました。

その結果、大会参加登録者数は521名、懇親会参加登録者数は256名と昨年を上回る規模となりました。研究発表数も、大学院生セッション22本、研究発表セッション65本、計87本と、多数のご報告をいただきました。

研究発表大会はパラレル会場での研究発表セッションが中心ですが、1日目・6月22日の午後後半はメイン会場と懇親会会場で一堂に会する時間帯としました。最初は「現場発デジタルイノベーション」をテーマとした特別セッションでした。本年4月に明治大学経営学部へ赴任された組織学会元会長の新宅純二郎先生に企画をお願いし、実現しました。特別講演としてヤマハ発動機株式会社生産技術本部長の茨木康充氏に「主役は“人”：デジタルツールは新価値創造プロセスにおける触媒である～製造現場のDXは現場サイエンティストの育成が鍵～」をご報告いただきました。それを受け、現場サイエンティストのひとりである同社設備技術部の熊田知也氏、そして新宅先生も加わり、対談が行われました。野中郁次郎先生（一橋大学名誉教授）のSECIモデルも交えながら、人材によって構築されてきた現場知識と新たなデジタルツール、分析手法の結合によるイノベーション創造の可能性等が議論されました。

特別セッションに続き、高宮賞授賞式・受賞者セッションが行われました。学会賞担当評議員・沼上幹先生（早稲田大学）の司会のもと、2024年度学会賞審査委員長・武石彰先生（学習院大学）より審査講評が報告されました。そして、青島矢一会長より著書部門受賞者・園田薫先生（東京大学）に表彰盾が授与されました。加えて、株式会社有斐閣の江草貞治代表取締役社長への出版社表彰も行われました。その後の学会賞授賞者セッションとして園田先生より、受賞作の要旨と面白み、執筆の動機、今後の展開可能性についてご講演いただきました。そして初日メイン会場の最後のセッションは総会でした。

総会終了後、場所をリバティタワー最上階の岸本辰雄ホールに移し、懇親会を開催しました。心配していた収容定員は超えませんでした。ホールは多数の参加者で溢れ、熱気に包まれた懇親会となりました。

今回は本学施設の制約から1日目と二日目で会場が別の建物となりました。また、二日目のアカデミーコモンはパラレル会場の容量が小さく混雑した会場・時間帯もありましたが、隣接した2フロアでコンパクトに6会場を収め、会場間移動が容易になり、参加者の距離感も狭まるといった利点があったかもしれません。ご不便、ご迷惑をおかけした点もありましたが、密度の高い充実した研究発表大会になったのではないかと考えております。発表、参加いただきました皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。また、開催準備にあたって多大なるご支援をいただきました大会委員会の先生方、そして事務局の方々に心より御礼申し上げます。

【2】2025 年度組織学会年次大会のお知らせ

2025 年度組織学会年次大会（法政大学）を、以下の通り開催いたします。会員の皆様には、是非ご参加いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

日 時：2024 年 9 月 28 日（土）・29 日（日）

開催校：法政大学 市ヶ谷キャンパス（対面開催）

大会テーマ：「経営のフロンティア：2040 年に向けた組織の課題と挑戦」

本大会では、2040 年という「近すぎず遠すぎない未来」を時間軸に設定し、いま現在、山積するさまざまな課題に対して企業・組織が何を行っているのか、そして組織論・戦略論研究がどのような概念や理論、分析結果を提示しているのかを、皆で検討し対話する機会を提供したいと考えております。

プログラムは、以下の企画より構成されています。

- (1) 計 11 個のテーマ・セッション
- (2) 特別セッション I・II 「本郷バレーのスタートアップ・エコシステム」
- (3) 会長講演
- (4) ランチョン・セッション I・II
- (5) 国際セッション（英語セッション）
- (6) 懇親会

今回、開催校および大会委員会の企画として、合計 11 個の多彩なテーマの通常セッション（テーマ・セッション：各 80 分間）を設けました。いずれのセッションも、2040 年に向けて日本や日本の企業・組織が克服しなければならない課題と密接に関連したテーマを扱っています。登壇者の報告や、フロアも交えたディスカッションを通じて、学会員の皆様が新たな気づきを得るきっかけにしたいと考えております。

大会 1 日目の午後は、「本郷バレーのスタートアップ・エコシステム」をテーマとする特別セッションの I・II を開催します。特別セッション I では、「東京大学における 20 年間の軌跡」とのテーマで、東京大学産学協創推進本部の菅原岳人氏（ディレクター）と松井克文氏（ディレクター）の 2 名、および東京大学エッジキャピタルパートナーズ（UTECE）の坂本教晃氏（取締役 COO パートナー/マネージングディレクター）より、東京

大学のアントレプレナーシップ教育およびスタートアップ支援についてのそれぞれの取り組みや経験についてご紹介いただきます。

特別セッションⅡでは、「先輩から後輩へ受け継がれる起業家活動ーロボティクス領域での起業実践ー」とのテーマで、ロボティクス分野（ロボットの制御や設計、製作に関する研究を行う学問分野）研究の最先端に行く東京大学大学院 情報システム工学研究室 (JSK)に焦点をあてて、JSK 出身者の起業の連鎖や、研究者や学生・出身者の目線から見た大学やベンチャーキャピタル、TLO、国や地方公共団体等による支援や政策が果たしてきた役割等について、長く研究室を運営されてきた稲葉名誉教授と、JSK 出身のスタートアップ企業の創業者 2 名からお話いただきます。登壇者は、稲葉雅幸先生（東京大学大学院情報理工学系研究科創造情報学専攻 名誉教授）、小倉崇氏（株式会社シンクロボ 代表取締役社長）、孫小軍氏（BionicM 株式会社 代表取締役社長）です。

また、2 日目の午後には、会長講演のセッションを設定し、青島矢一 組織学会会長より、「経営学の研究スタンスと学会の国際化」（仮）とのテーマでお話いただきます。

これらに加えて、1 日目と 2 日目の昼食休憩時間には、2 つの特別企画（ランチョン・セッション）を設定しました。まず、初日のランチョン・セッションでは、米倉誠一郎先生（一橋大学 名誉教授、デジタルハリウッド大学大学院 特命教授）にご登壇いただき、「さよならイノベーション」とのテーマでお話いただきます。

2 日目のランチョン・セッションでは、栄藤稔先生（大阪大学先導的学際研究機構 教授）にご登壇いただき、「AI が描く産業と社会の未来像ー組織構造と意思決定プロセスの再定義と新たな倫理的課題ー」とのテーマでお話いただきます。

さらに本大会では、初めて、国際委員会主宰の英語セッション（call for papers 方式）が実施されます。国際委員会で報告者の審査・選定、プログラムの編成が行われていますが、現在のところ、40 本を超える報告が行われる見込みです。決まりましたら、プログラムを大会開催用 HP に掲載いたします。

この他に、懇親会も開催いたします。皆さまがリラックスして、大いに語り合い交流できる場をご用意いたしますので、多くの会員の皆様のご参加を期待しております。

会場の法政大学市ヶ谷キャンパスは都心に位置し、アクセスが非常に便利です。最寄り駅は JR/東京メトロ/都営地下鉄の飯田橋駅と市ヶ谷駅で、いずれも下車徒歩約 10 分です。恐縮ですが、ご宿泊につきましては、各自でご手配ください。

また、本大会では、昼食はご用意いたしません。お手数をおかけして誠に申し訳ございませんが、大学周辺のレストラン・コンビニ等をご利用いただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、皆様の大会へのご参加を心よりお待ちしております。

なお、大会に関するお知らせにつきましては、大会専用ウェブサイトにて随時掲載してまいりますので、ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。

(<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/aaos2025nenzi>)

2025 年度組織学会年次大会 実行委員長 法政大学 田路 則子
事務局長 法政大学 近能善範
実行委員会一同

【3】2025 年度組織学会研究発表大会のお知らせ

2025 年度組織学会研究発表大会は、2025 年 6 月中旬ないし下旬に九州大学伊都キャンパスにおいて開催される予定です。会場の手配、開催日時は確定できていませんが、2025 年 1 月にはお知らせできる予定です。

九州大学は、2005 年から伊都キャンパス（福岡市西区）への移転を進めてきましたが、2018 年 9 月に文系 4 学部と農学部の移転が完了しました。九州大学での本学会の開催は、2008 年度年次大会（箱崎キャンパス）以来ですので、伊都キャンパスへ初めてお越しになる方も多いかと思えます。新たなキャンパスにて学会員の皆様をお迎えできることを大変光栄に存じております。

研究発表大会は、院生セッションならびに研究発表セッションともに自由論題による発表が中心となります。今回も対面での開催を予定しています。年明けには報告公募のご案内を致しますので、どうぞ奮って研究報告にご応募いただきたくようお願い申し上げます。

参加者の皆様にご満足いただけるような研究発表大会となるよう、実行委員会一同、鋭意努力して参ります。どうぞご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

2025 年度組織学会研究発表大会（九州大学）実行委員会

【4】ドクトラル・コンソーシアムについて

6 月の研究発表大会の大学院生セッションで報告した方の中から、大会委員会が選んだ大学院生を、その年の秋の年次大会時に開催する「ドクトラル・コンソーシアム」（ドクコン）にご招待いたします。大会委員会の選考基準は「組織科学に投稿して採択されるような論文になることが期待される報告」です。大会委員会で選ばれた方には、研究発表大会

終了直後に「インビテーション・レター」をお送りいたします。ドクコンはその年の年次大会前日にほぼ丸一日かけて開催されますので、ドクコンご参加の意思確認をいたします。ドクコン参加者の当該年次大会の参加費は免除します。

ドクコンは、いわゆる Paper Development Session です。ドクコン参加者は、全員が『組織科学』仕様の(投稿規定に則った)論文を持ち寄り、オーガナイザーの指導の下、互いに切磋琢磨することを求められます。ドクコン提出論文は、「組織学会ドクトラル・コンソーシアム査読付報告論文」と明記できるようになりますが、それに満足することなく、ドクコン終了後できるだけ速やかに修正し、『組織科学』等に投稿されることを強く希望いたします。

そして、ドクコン開催日の夜（あるいは翌日の夜）には、ドクコン参加者のご希望にできるだけ沿えるよう、数人のシニアの学会員をお呼びして、懇親会も開かれます。くつろいだ雰囲気の中で、先輩研究者とのカジュアルな対話を通して、良い研究とはどのようなものか、研究を行う上での手がかりや悩み、研究者としてのあり方などを考える贅沢な時間をお楽しみください。

大会自体がコロナ前の対面開催に回帰したことを受けて、ドクコンについても、対面開催へと戻すことにいたしました。オンラインではできなかった、若手研究者とオーガナイザーの先生方とのアイデアと熱量の交換に期待したいと思います。

すでにご存知かと思いますが、一昨年度の大会より、ドクコン参加者を「組織学会研究発表大会優秀報告者」と称することが決まっております。ドクコンに参加することで研究をブラッシュアップする権利を得ると同時に、参加した時点で、大会で報告を行った大学院生報告者の中でも、特に優れた報告者と学会に認められた、ということの意味します。学会として賞状等を授与するという事は致しませんが、参加者の皆様は、自身が「優秀報告者」であることを履歴書等にお書きいただくことが可能になります。ドクコンに関心を持たれた大学院生の会員は、まずは大学院生セッションでの報告に奮ってご応募ください。それがドクコン「インビテーション・レター」への最初の一步となります。

大会委員会

【 2024 年度 組織学会高宮賞 】

2024 年度組織学会高宮賞は、以下の通り決定いたしました。

【著書部門】

受賞者：園田 薫（日本学術振興会特別研究員（PD））※刊行当時

著書名：外国人雇用の産業社会学－雇用関係のなかの「同床異夢」

【論文部門】

受賞者：該当なし

論文名：該当なし

2024 年度組織学会高宮賞 審査報告

審査委員長

武石 彰

担当評議員

浅羽 茂

沼上 幹

浅川和宏

2024 年度の組織学会高宮賞は、著書部門で、園田薫さんの『外国人雇用の産業社会学－雇用関係のなかの「同床異夢」』（有斐閣、2023 年 3 月）が選定されました。論文部門は、該当作なしとなりました。

園田さん、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

慣例に従い、以下、審査の過程をご説明し、受賞作品をご紹介します。

今回の審査は、著書部門で 4 点、論文部門で 3 点が審査対象となりました。各作品について担当する審査委員の先生方に評価していただき、その評価を持ち寄って 3 月下旬に審査委員会を開催いたしました。担当評議員の立ち合いのもと、厳正・慎重に審査を行い、上記の結果に至りました。

受賞された園田さんのご著書は、日本企業における外国人雇用の実態を実証分析したもので、企業側と外国人労働者側の意図のズレ、つまり「同床異夢」によって雇用が成立し、維持され、しかしやがて解消されるというプロセスが明らかにされています。

外国人雇用に関するこれまでの研究の多くは、社会的弱者・少数者であるブルーカラー労働者に着目したり、日本的経営と外国人労働者の志向は両立し難いという問題に焦点を当てたりしていました。これに対して、本書は、高学歴のホワイトカラー外国人が日本企

業において専門的・技術的な分野で働いている実態を取り上げ、そこで何が起きているかを問うものです。

本書は、この問いに向けて、関連する既存の学術的蓄積を広く受け止めながら、依拠する理論・方法論を明確に設定し、多様なデータと分析方法を用いて、丁寧に、統合的に研究を行っています。本という媒体だからこそ可能になる研究成果となっていると思います。

具体的には、人間訴求的視点を備えた産業社会学（＝産業関係を個々の当事者の相互的行動とその動機となる意識の実態まで遡って分析する）を理論のベースに置いた上で、シンボリック相互作用論、センスメイキング論などに依拠して、マクロの状況（企業、社会、外国人労働者、制度）を背景としながら、企業の人事担当者と労働者という当事者のミクロの意味世界と行動を分析（企業側の採用の思惑、事情、行動、外国人労働者側の就職の思惑、事情、行動）するという分析枠組みを設定しています。この枠組みに基づき、人事担当者と外国人労働者の双方への聞き取りによって収集した質的データを綿密に分析するとともに、二次データを用いた定量分析も行われています。それらを通じて、日本企業における外国人雇用が、当事者の認識と行動の相互作用により、「同床異夢」として成立・継続し、しかしその後の双方の状況変化により、外国人労働者のライフイベント、プライベートな理由なども作用しながら解消に向かうという過程が重層的に明らかにされています。この分析結果は、日本的雇用システムそのものが外国人労働者の雇用を妨げているわけではないことを示すものともなっています。結論部分では、分析結果が、企業、外国人労働者、日本社会、学術に向けてどのようなインプリケーションを持つかについても丹念に論じられています。

企業経営、組織、人材マネジメントの内実へのより深い切り込みが必要ではないか、この結論にこれだけの道具立てが不可欠だったのか、結論に顕著な意外性はないのではないかと、といった指摘もありえると思います。しかし、見過ごされていた現実を取り上げ、依拠する理論・方法論とその意義を強く自覚しながら分析枠組みを設け、多様なデータを収集・分析し、設定した問題に向けて、多角的に、統合的に立ち向かった優れた研究であるという点に異論はなく、高宮賞に相応しい著書として選出されました。

有能な外国人に限らず、組織における異質な人材の活用という問題は、これからの組織において、特に日本の組織にとって一層重要性を増すことは明かです。「組織科学研究の奨励に資する」というのが高宮賞の主旨です。その主旨に沿うべく、この研究が礎、刺激となって、関連する組織研究が、園田さんご自身、そして組織学会員の方々によってさらに蓄積され、大きく発展することを期待してやみません。

なお、審査対象になったそのほかの著書、論文には、組織研究に対して大きな問題提起をしている、重要な理論領域において新たな貢献を試みている、優れた分析手法を応用し

ている、データ収集の方法で独自の工夫をしている、といった点で評価された作品がありました。受賞には至りませんでした。こうした努力を粘り強く続けていただき、将来、さらに優れた研究成果を生み出していただくことも期待したいと思います。

最後に、お名前を出すことができませんが、審査にあたっていただいた審査委員の先生方、また審査作業を支えていただいた担当評議員の先生方並びに学会事務局の方々に感謝申し上げます。

審査委員長 武石 彰

2024 年度組織学会高宮賞 受賞者挨拶

— 著書部門 —

『外国人雇用の産業社会学：雇用関係のなかの「同床異夢」』

(有斐閣 刊)

東京大学 園田 薫

この度は、組織学会高宮賞（著書部門）に選出していただき、ありがとうございます。まさか個人的なこだわりから主題に「産業社会学」という古めかしい領域社会学の名前を冠した本書が、組織研究の権威である高宮賞に該当するとは思ってもみず、望外の喜びです。まずは本書を読んでくださった、そして評価してくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

本書は日本で働くホワイトカラーの外国人と、彼ら/彼女らを雇用している日本企業の雇用関係に着目し、いかにしてその雇用関係が成り立っているのかを検討したものです。本研究を書籍化するにあたって意識したのは、社会学のディシプリンに沿って書いた博士論文を、どうやって他領域の研究者に対しても理解可能なものに仕立てていくのかという点です。外国人雇用に関する問題は、かなり幅広い学問的な関心の対象となりうるものであり、異なる角度からの関心をもつ潜在的なオーディエンスがいると想定されます。私自身も様々な研究分野に興味がありますし、それぞれの学問分野からみて、自分の分野でも応用可能だと思ってもらえるような議論を提供できるようにと心がけ、本書を執筆しました。

執筆に向けて調査データを整理しながら気づいたのは、外国人を雇用したいとする企業人事部も、そこで働く外国人たちも、ある種同様の矜持と葛藤を抱えていることです。日本企業の人事部は、決して外国人を排除しようと人事労務管理を行っているわけではなく、ましてや調査に応じてくれるような企業は、外国人雇用に真摯に取り組んでいるという自負があります。それでもなお、うまくいかない現実と直面するからこそ、その認知的不協

和を解消する意味づけが必要になるのではないか。外国人も同様です。離職した専門的外国人の語りで印象的だったのは、どの人も「自分は辞めたくなかった」と述べ、自分が勤めた会社の良さについても自覚的でありながら、それでも辞めるに至ってしまった理由を紡いでいた点です。企業人事部も外国人を理解しようとし、外国人も日本企業の一員だという意識があったからこそ、意識と結果の間に認知的不協和が生じていたのではないか。私の調査に答えてくれたのは、その矜持と葛藤があったからであり、インタビューへの回答はその心理的負担を軽減するための行為となったのかもしれない。

自分は本書の執筆を通して、目の前で悩んでいる人たちの葛藤や苦しみを感じ、貶価値させずに翻訳可能な言葉と概念に置き換え、ゆるやかに他者の葛藤や苦しみと接合していくことが重要だと痛感しました。組織のなかには、たくさんの「他者」が存在します。それらをまったく異質なものとみなすのではなく、かといって過剰に同一視してしまうこともせず、常にその「あいだ」を見定めていくことが研究者としての重要な責務だと感じています。

私は雇用関係のあいだを、個人と組織のあいだを、組織と社会のあいだを、多くの研究領域のあいだを、つなごうと意識して本書を執筆しました。もし本書が少しでも皆様への刺激となり、今後の組織研究を盛り上げるための一助になるのであれば、この上もない喜びでございます。これからも研究に邁進して参りますので、今後とも何卒よろしく願いいたします。

【新入会員紹介】

2024年度(第20期)には、正会員101名、準会員(個人)31名、準会員(団体)2社が入会しました。また、準会員から正会員へ会員種別を変更した会員は3名、正会員から準会員への会員種別変更は、1名でした。

【総務関係】

【1】年会費納入のお願い

当学会は2024年9月1日より2024年度(第21期)に入っております。年会費として正会員の方は12,000円、準会員・個人会員の方は8,000円のご納入をお願いいたします。

ご請求内容につきましては、会員管理サイト「SMOOSY」の会員マイページにてご確認ください。

(会員管理システム (SMOOSY) : 会員マイページのご案内)

会員マイページ URL : <https://aaos.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

ログイン ID : ご登録済のメールアドレスをご入力ください。

パスワード : ご登録済のパスワードをご入力ください。

1. ゆうちょ銀行(郵便払込取扱票)および銀行振込の方

金額等をお確かめのうえ、支払い期限(2025年8月31日)までにお支払い手続きをお願いいたします。

2. 銀行自動引落(口座振替)の方

2024年9月27日にご指定の口座から振替いたしますので、お確かめください。

お支払い手数料は当方にて負担いたします。また、口座振替入金事務手続き後にSMOOSYより領収書発行が可能となります。こちらは手続き上の関係で確認までお時間を頂戴いたしますので、確認後に会員管理サイトに「入金」より領収書発行が可能になります。

3. 請求書をお申し込みいただいた方

年会費の請求書発行につきましては、会員管理サイト「SMOOSY」の会員マイページより、随時発行可能でございます。

一部の方を除き4月に請求書の郵送はいたしませんので、ご自身で請求書発行をお願いいたします。

※一部会員には滞納や支払遅延がみられ、予算執行上の扱いや決算時の未払い会費処理等で、運営上の問題が発生しております。会員の皆様には事情をご理解いただき、何卒速やかなお支払いをお願い申し上げます。

【2】大会出席・会員総会委任状送付のお願い(オンライン会員総会の日程未決定)

2025年度組織学会年次大会では、2024年9月28日(土)に会員総会が開催されます。大会開催が従来よりも早まりましたので、別途、オンラインにて会員総会の開催を予定しております。

組織学会の重要な議決機関です。また、今回の会員総会は、特定非営利活動法人としての総会も兼ねております。特定非営利活動法人の総会開催には正会員の5分の1以上の出席が必要とされております。正会員の皆様方には、是非ともご出席いただきますようお願いいたします。

やむを得ずご欠席の場合には、学会ホームページより「委任状」をご提出くださいます

ようお願い申し上げます。ご欠席の可能性がある場合にも、委任状の提出をお願いいたします。委任状をお送りいただいた上で総会にご出席された場合、委任状の総数から出席人数を差し引きます。

2025 年度会員総会 電子委任状送付 URL :

<https://www.aaos.or.jp/contents/join/poa.php>

総会出席、ならびに委任状の送付は、すべての正会員の皆様の意向を確認するための措置です。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【2025 年度 若手学会員を対象とする研究支援について】

組織学会では、組織研究を活性化するために、若手学会員の英文論文の執筆・発表や共同研究等を奨励・促進する研究支援を、下記の通り実施します。

＝ 記 ＝

A) 英文論文の校正支援(1 件当たり 5 万円)

(1) 支援内容

- ① 組織科学英文年報や国際ジャーナルに英文論文を投稿する論文、国際コンファレンスや海外の学会で発表するフルペーパー(アブストラクトのみの場合は支援対象外)の英文校正費用を対象として、1 件当たり 5 万円を研究奨励金として組織学会より補助します。

(2) 応募条件

- ① 応募締切時において 40 歳未満の正会員が第一著者であることが必要です。
- ② 再応募も可能ですが、一度支援を受けた場合には、最低 2 年間は再応募できないものとします。

(3) 応募手続

- ① 応募者の連絡先や投稿先などを、規定のフォーマット(組織学会ホームページに掲載)により申請してください。
- ② すでに投稿済みの場合には、受理レター(プリントアウト・コピー等でも可)を添付してください。
- ③ 締切は年 3 回(12 月・3 月・6 月)設けます。2025 年度は、2024 年 12 月 6 日(金)、2025 年 3 月 7 日(金)、6 月 6 日(金)を期日とします。締切後の 1 ヶ月後を目途にお知らせいたします。

- ④ 組織学会事務局宛に、必要書類を添付ファイルとして電子メールで送付してください。受付は締切日の 17 時までとします。

(4) 支援決定後の手続等

- ① 支援決定後に投稿する場合は、研究奨励費受領から 1 年以内に投稿することが望めます。投稿後は、受理レター（プリントアウト・コピー等でも可）を組織学会に提出してください。
- ② 学術ジャーナル・学会予稿集などに採択され、掲載が決定した場合には、掲載論文に組織学会より補助を受けている旨を明記し、抜き刷り（電子ファイルもしくはハードコピー3部）を組織学会事務局に提出してください。

B) 若手会員を中心とする共同研究(1件当たり 10万円)

(1) 支援内容

- ① 代表者およびメンバーの半数以上が、応募締切時点で 40 歳未満の正会員である共同研究を対象として、1 件当たり 10 万円を研究奨励金として組織学会より補助します。

(2) 応募条件

- ① 共同研究のメンバー全員が正会員で、代表者およびメンバーの半数以上が応募締切時点で 40 歳未満であることが必要です。
- ② メンバーの所属先は、複数の機関であることが望めます。
- ③ 継続申請も可能ですが、原則として最長 2 年までとします。

(3) 応募手続

- ④ 参加メンバー氏名、研究テーマおよび内容等を、規定のフォーマット（組織学会ホームページに掲載）により申請してください。
- ⑤ 締切は年 1 回（3 月）設けます。2025 年度は、2025 年 3 月 14 日（金）を期日とします。
- ⑥ 組織学会事務局宛に、必要書類を添付ファイルとして電子メールで送付してください。

(4) 支援決定後の手続等

- ⑦ 研究グループは自らの責任において活動し、研究奨励費受領から 1 年以内に研究成果報告書を、組織学会事務局宛に提出してください。研究成果報告書は、組織学会ホームページで公開します。
- ⑧ 研究成果については、研究発表大会・年次大会などで発表することが望めます。他学会等で研究成果を発表する際には、組織学会からの補助を受けている旨を明示してください。論文などとして学術誌等に掲載が決定し

た場合には、組織学会より補助を受けている旨を明記し、抜き刷り（電子ファイルもしくはハードコピー3部）を組織学会事務局に提出してください。

【事務局より】

【1】銀行口座自動引落（口座振替）結果状況確認について

会費の銀行口座自動引落（口座振替）自動引落は、三菱UFJニコス株式会社(NICOS)の収納代行サービスを利用しております。そのため、内容確認のためにお時間をいただきますので、何卒ご了承ください。

【2】会員情報の登録変更について、（会員管理システム（SMOOSY）を使用）

一昨年より会員管理システム（SMOOSY）を導入しております。会員の皆様におかれましては、会員データ登録内容（所属、住所、電話、FAX、メールアドレス等）に変更が生じた場合は、以下のURLより、会員情報の変更登録をお願いいたします。

（会員管理システム（SMOOSY）：会員マイページのご案内）

<https://aaos.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

- ・ログインID：ご登録済のメールアドレスをご入力ください。
- ・パスワード：ご登録済のパスワードをご入力ください。

【3】大会開催前後の連絡について

年次大会・研究発表大会の開催（土・日）において、事務局員は会議運営および諸準備のため、前日の金曜から準備にあたっております。また恐縮ながら、翌月曜日は代休日となります。その間、事務局宛の電話・FAX・メールを確認することができません。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

なお、次の2025年度組織学会年次大会（法政大学）は、準備の都合上、金曜日のご連絡はお受けすることができません。

組織学会通信 第93号

2024年9月20日

発行 特定非営利活動法人 組織学会
事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-2
三菱ビル 地下1F 171区外

TEL : 03-5220-2896

FAX : 03-5220-2968

URL : <https://www.aaos.or.jp>